

政策対話（企画振興部）の概要

1 テーマ

自己実現がかなう地域とは

2 実施概要

(1) 日 時

令和5年9月12日（火）13時半から15時

(2) 場 所（実施手法）

inadani sees（現地開催）

(3) 参加者（視聴者）

9名（地域おこし協力隊、地域おこし協力隊OB・OG）

県側：企画振興部長、信州暮らし推進課職員、地域振興課職員

3 対話での意見（概要）

区 分	意 見	意見に対する県の考え方	令和6年度当初予算への反映
自 己 実 現 が 可 な う 地 域 と は	<ul style="list-style-type: none">・移住者（チャレンジ等）を受け入れる地域の寛容さが重要。・協力隊の活動は、自身の時間が確保でき、知識のインプットやチャレンジできる環境に満足している。また、意義や目的に共感した地域の方々が無償で協力していただけることが多く励みになる。・複数の生業を持てるのが地方の魅力で、やりがいを感じる。一方で、最初は地域とのつながりをつくるのが難しいため、サポートがあればありがたい。	<ul style="list-style-type: none">・移住者を含め、外部から地域に関わろうとしたときの地域側の余白（関わりしろ）や実際につなぐ役割を持った者の存在が大切であると感じました。・県としても、外部と地域との接点づくりを意識した取組を進めてまいります。・また、協力隊員向けに、つながりの場づくりや、任期終了後を見据えた起業・定着のためのノウハウを学ぶ研修等について検討してまいります。	<ul style="list-style-type: none">・共創人口構築事業【4,606千円】 地域に存在する空き家を関わりしろに、地域の内と外をつなぐ空き家DIYイベントの実施を伴走支援します。・地域おこし協力隊 受入・活躍支援事業【6,162千円】 隊員向けに初任者研修やテーマ（分野）別の研修等を実施し、資質向上を図るとともに隊員の定着に繋げていきます。また、県で協力隊員を配置し、隊員やOBOG同士のつながりの場づくりなどのサポートに取り組みます。